

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月18日
札幌市立もみじ台中学校

1 もみじ台中学校区における学校関係者評価

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	A	生徒が意欲的に学ぶことができるような授業づくりを継続した。昨年度より定期テストを廃止した。ICTを活用して単元テストや提出物の日程を生徒が把握できる工夫を行い、見直しをもって主体的に学習に取り組めるよう実践した。	A	A
	A	「子どもの声を聴く」ことを重点に、生徒一人一人が大切にされている存在であるという意識をもてるような集団づくりを実践した。自己肯定感の高まりが見られた。	A	A
学校運営協議会による意見	定期テスト廃止と単元ごとの評価への移行という大きな決断を高く評価する。目標が細分化されたことで、生徒が「次こそは」と前向きに学習に取り組む姿勢が見られ、学習習慣の定着に寄与していると感じる。日常的に「子どもの声を聴く」姿勢が徹底されており、生徒が「自分は大切にされている」と実感できていることが自己肯定感の向上につながっている。			

2 各学校における学校関係者評価

本年度の重点目標

- 主体性を大切にする学校 ○多様性を認め、受け入れる学校
○学びを楽しむ学校 ○笑顔で活力のある学校
- 1 学ぶ力の育成【知】 2 豊かな心の育成【徳】 3 健やかな体の育成【体】
4 札幌らしい特色ある学校教育 5 信頼される学校の創造 6 働き方改革の推進

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	A	単元毎の学習評価を丁寧に伝え、日常的に学習に取り組めるよう指導を行った。家庭での学習も含め学習意欲の向上に一層努めていきたい。	A	A
	B	一人一台端末を活用することで学習意欲の向上につながっている。よりよいICT機器の活用方法を学び、生徒に還元していきたい。	A	A
学校運営協議会による意見	ICT端末（タブレット）を効果的に活用した授業は視覚的にも分かりやすく、生徒の知的好奇心を刺激している。今後はこの評価方法を数年かけて検証し、定着させていくとともに、家庭学習への意欲向上に向けたさらなる働きかけを期待している。			
豊かな心の育成	A	いじめ防止基本方針を全教職員が理解し、日常的な相談活動、定例のいじめ防止委員会の開催を中心とした迅速かつ組織的な対応を行った。	A	A
	A	教育的な教育相談やシャボテンログの活用、養護教諭による健康教育を行い、生徒の心に寄り添う関わりを大切にしている。	A	A

	生徒が主体となり、充実した生徒会活動が行われている。	A	生徒会役員会が中心となり、各種行事では実行委員会を組織するなど生徒が主体的に取り組む活動を継続して行った。また CS の一環として「もみじ台子ども会議」を開催するなどパートナー校や地域との関係づくりを推進した。	A	A
学校運営協議会による意見		いじめに対する組織的な対応に加え、友人関係の悩みに対して時間をかけて丁寧にヒアリングを行うなど、長期的な見守り体制に保護者からも大きな信頼が寄せられている。生徒会や行事の実行委員会など、生徒が主体となって学校を動かそうとする活気ある姿を、今後も大切に育てていただきたい。			
健やかな体の育成	スポーツをする機会を積極的に確保するとともに、自分の健康に対する意識を高めている。	A	陸上競技大会や5色綱引き大会など、運動する機会を積極的に確保し、健康的な生活に対する意識を高める取組を継続した。	A	A
	健康的で安全な学校生活のために環境保全と啓発に取り組んでいる。	A	保健体育の授業や保健だよりを活用し、健康状態や健康的な生活を自ら調整したり改善したりできるような取組を行った。	A	A
	性・生命に関する指導を充実させ、自他を尊重する態度を育てている。	A	養護教諭や外部講師による性と命の健康教育講演会や、性の悩みについて考える機会を通して、多様性を受け入れる等、人間尊重教育を進めた。	A	A
学校運営協議会による意見		陸上競技大会や部活動など、運動を通じて心身をリフレッシュし、達成感を味わう機会の継続を支持する。外部講師や養護教諭による「性と命」の健康教育などは、家庭だけでは補いきれない重要な学びとなる。不登校傾向にある生徒なども含め、より多くの生徒が等しく学べる工夫も検討していくとさらによい。			
札幌らしい特色ある学校教育	ふるさと札幌への思いを込め、雪に親しむ心を培っている。	A	地域人材を活用したクロスカントリースキー学習を通して、雪と共生しようとする心を培う取組を行った。今後も継続していきたい。	A	A
	地球と札幌のよりよい環境を創造しようとする心を培っている	B	各教科等で、持続可能な社会を導くためにはどのような行動が必要かを考える場面を設定した。今後も教科等横断的な学びの視点を育めるように努めていきたい。	A	A
	知的好奇心をふくらませ、学び続けようとする心を培っている。	A	朝読書の時間や、昼・放課後の図書館の開館など学校司書と連携した環境整備を行い、読書に親しみ、知的好奇心を喚起する取組を継続した。	A	A
学校運営協議会による意見		地域の指導者や環境を活かしたクロスカントリースキー学習は、本校ならではの素晴らしい取組である。地域人材との連携を今後も継続してほしい。環境保全や読書活動を通じた知的好奇心の喚起など、多面的な学びの視点を育む教育も評価に値する。			
信頼される学校の創造	「開かれた学校」を目指し、教育方針や学校運営上の様々な課題とその解決策について説明、発信に努めている。	A	地域や PTA と互いに信頼し合える関係を築くため、保護者集会や学校HP、すぐる配信などで学校の様子を発信を継続していきたい。	A	A
	安全な学校生活を送るための十分な対策がなされている。	A	SNS に起因する被害防止講演会や火災・地震を想定した避難訓練、日常的な施設点検を行う等、安心安全を確保する取組を継続した。	A	A
	次世代を担う子どもを育成するため、教員の資質・能力の向上に向けた取組を推進している。	A	札幌市の教育が目指す人間像を共有しながら、校内研修会の内容の充実、教育委員会主催の研修への参加を促す取組を行った。	A	A
学校運営協議会による意見		学校HPやすぐる配信を通じてタイムリーに情報が発信されている。また、PTA 主催の座談会などを通じて直接対話する機会もあることを高く評価する。今後も学校・家庭・地域が手を取り合っ			

◎教育活動に対する学校関係者評価委員からの意見等

今年度コミュニティ・スクールの取組が始まり、地域で子どもの声を聴くことができた。「子どもの思いを実現したい」という願いを、学校と保護者・地域で共有することが進んだ。今後、この「思いの共有」という願いを全校生徒、地域全体に広げていくことを期待している。